

令和6年度 第2回小樽市子ども・子育て会議 会議録

日 時：令和6年11月19日（火）午後6時00分～午後7時10分

場 所：小樽市役所消防庁舎6階講堂

出席者：片桐会長、松本委員、桑原委員、小笠原委員、厚谷委員、渡邊委員、伏間委員、
松並委員、川原委員（欠席者：石川委員、林委員、一鐵委員、法本委員、木村委員）

事務局：こども未来部長、こども未来部次長、こども未来部主幹、こども未来部主管、こども福祉課
長、こども家庭課長、放課後児童課長、子育て支援課長、子育て支援課教育保育係長、子育て
支援課事業係長、主査、係員

<1 議事>

(1) 特定教育・保育施設の利用定員の変更等について

●事務局より

資料1に基づいて、利用定員変更の申出と市立保育所の定員変更について説明した。

(2) 第三期小樽市子ども・子育て支援事業計画策定について

●事務局より

資料2～6に基づいて、第三期小樽市子ども・子育て支援事業計画の策定について説明。前回会議より修正した部分や国の基本指針改訂により生じた内容の概要等について説明した。

○委員からの意見等

【産後ケア事業について】

- ・新規事業として産後ケア事業があるが、これはどこが主体で、どこが行う事業なのか？
 - ・対象者は？
 - ・先日ニュースになっていたホテルで行う産後ケアとはまた別のものなのか？
- ⇒こども家庭課で実施。事業としては小樽協会病院に委託しているもので、市内では1箇所のみで実施している。
- デイケア型は生後4か月、訪問型は生後12か月までの乳児を持つ母親が対象。
- 全額自費で行っている民間での産後ケアというものもあるが、これは市で行う産後ケア事業。こちらについては5回までという回数制限はあるが費用は無料である。

【第二部「4 今後の課題」について】

- ・第二部「4 今後の課題」の中に入所待ち児童についての記載があるが、この認可保育所の中には公立保育所も含んでいるのか？
- ⇒含んでいる

【公立保育所の定員等について】

- ・資料1の市立保育所の定員変更について、3か所について5人減とのことだが、今回定員数を変更したら、3年間はそのままの定員で行くということで良いか？
- ⇒少なくとも3年は、状況を見定めて定員変更したいと考えている。

- ・民間にも入所待ち児童はいるが、公立の入所待ち児童数が多く見える。ここまで入所待ち児童があるというのは厳しく考えなければいけないと思う。
- ・そもそもの国の基準についても保育士の配置が少なすぎると感じる。

⇒御意見としていただく。

国の基準については市独自では変えられないが、毎年民間保育協議会からも要望をいただいております、市として国へ要望を出していくことはできるので引き続き出していきたいと考えている。

【ファミリーサポートセンター事業について】

- ・利用料の検討については計画の中でしていくものなのか？

⇒利用料金の見直しについては計画には記載しておらず、現在検討は行っていない。

- ・前回会議でも病児預かりの際の料金見直しについて要望した。計画の基本方針の「地域で子どもを守り育てる環境の充実」というところにも絡んでくる事業だと思うので、もっとたくさんの方に利用できるようにしてもらいたいので、ぜひ検討してほしい。

⇒病児保育とは性質が違ってくることもあり、同様にするのは難しいかもしれないが、そういった要望があったり地域ごとの使い辛さがあるということは把握している。この計画に記載はないが、引き続き状況について確認し、やり方を検討していきたい。

【市内の産科について】

- ・基本理念に「安心して子どもを産み育て、子どもの豊かな心と未来を育むことができるまち おたる」とあるが、出産する病院が少なくなり、小児科が少なくなり、出産・通院するときに他自治体に行かなければ行けないという状況もある。

⇒別の場で議論することではあるが、意見としていただく。

【保育士確保対策について】

- ・保育業界だけでなく全体的に人手不足ではあるが、その中で保育士の確保というのはどのような対応で進めているのか聞きたい。

⇒令和5年度から保育士の就労定着支援事業を実施。市内で就職した保育士に対して1年目に10万円、3年目に20万円、6年目に30万円を支給する事業で令和5年度は31名、令和6年度は現時点で19名の申請があった。対象者へのアンケート結果から長く働き続けるモチベーションになっていると考えており、引き続きこの事業の展開と周知を行っていききたいと考えている。

(3) その他

●事務局より

今後の日程について説明。

●委員からの意見等

特になし

以上